

講師
一般社団法人日本子育て支援協会
岩本久実子氏



乳幼児の2人に1人は
アレルギーを持っている

アレルギーと聞いて真っ先に「食物アレルギー」が思い浮かぶ方も多いかと思いますが、他にもぜんそく、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎など、アレルギーは症状、程度に至るまで多種多様です。

乳幼児のアレルギーについてパパママヘリサーチをとったところ「症状がある」または「アレルギーが疑われる」と答えた方は53.3%もあり、今や乳幼児の2人に1人は何らかのアレルギーを持っているという結果になりました。(ミキハウス子育て総研(株)「子どものアレルギー実態調査アンケート」より)

このことから、パパママ・キッズ婚での新郎新婦の子どもや、列席の子どもについても、何らかのアレルギーを持っているのではないかと、という前提での接客・打合せが必要な時代となっています。

では対処法の一例をご紹介します。

まずは、ぜんそく、アレルギー性鼻炎への対処についてですが、これらのアレルギーを引き起こす原因の一つとしてダニやハウスダストが挙げられます。

このことから、館内清掃は掃除機をかけるだけではなく、調度品から床面に至るまで水拭きを行うこと、またキッズコーナーで使用されるマットについては水拭きの後に天日干しを行いしっかり乾燥させることでダニの餌となる物質やダニの糞が除去でき、ダニの好まない環境作りとなります。

除去率の高い空気清浄器の設置も有効でしょう。

そして、ダニ・ハウスダスト対策について、実施と共にHP上等でもぜひ紹介をさせていただきます。清掃は一見地味な作業になりがちですが、情報発信を行うことにより、ゲストの安心感につながると共に、スタッフの意識向上にもつながります。

次に食物アレルギーへの対処についてですが、こちらは招待状の返信はがきにてヒアリングを行うなど既に各施設にて徹底されたマニュアルがあることと思いますが、大切なことは“ここまではできる”ということを明確にし、できないことには持ち込みや外注の道を用意されること、そしてお客様とのアレルギー関係のやり取りについては“書面で残しておく”ということです。

- またその他にも
- ・アナフィラキシーが起きた場合に備えて全スタッフへエピペンの使用方法をトレーニングする(定期的な人命救助訓練の実施)
 - ・近隣の休日診療所の情報を

全スタッフで共有するといった、万が一に備えた準備を行うことも大切です。

一方、子育て経験のない新郎新婦の場合、アレルギーの危険性を認識せず確認不十分のまま当日を迎えてしまうという恐れもありますので打ち合わせの中で“食物アレルギーは命に関わる”ということプランナーからしっかりと伝え、おもてなしをする立場として新郎新婦に認識を持っていただくことも必要です。

そして結婚式当日は、アレルゲン物質の記載がされたメニュー表を付け、各卓でスタッフからアレルギー保持者(子どもの場合は子の保護者)へ、その方に合わせてどのような配慮をしているのか、また事前にアレルギー情報をいただいていない子どもの保護者へも再度アレルギーがないかの確認を行うという何重もの確認をとることにより、安全管理の視覚化にもなります。

子どもへのアレルギー対応もいかに“視覚化”させ、事前準備がなされているかにより一歩先の対応となります。

Q. お子さまにアレルギー症状はありますか？



Q. 「症状のある」方にお伺いします。どんなアレルギーですか？(複数選択可)

